オーディオ実験室収載

古楽盤を聴く(7)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(7)－

1．始めに

LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ハイドン、古典派のアナログ盤を聴き直してきました。今回も、時代をさかのぼって古楽盤を聴いてみることにしました。

2．古典派のアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、古楽のアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンティスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次の古楽盤を聴いていきます

ドイツグラモフォン　MG2392

　　トマーゾ・アルビノーニ　アダージョ

　　ルイージ・ボッケリーニ　小 5 重奏曲（マドリードの夜警隊の行進）

　　ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

PHILIPS　SFX-8587（日本フォノグラム）

　　トマーゾ・アルビノーニ　　オーボエ協奏曲ヘ長調

　　　　　　　　　　　　　　オーボエ協奏曲ハ長調

　　　　　　　　　　　　　　オーボエ協奏曲ト長調

　　　　　　　　　　　　　　オーボエ協奏曲ニ長調

　　ハインツ・ホリガー（オーボエ）

　　モーリス・ブールグ（オーボエ）

　　イムジチ

PHILIPS　9502 012

　　トマーゾ・アルビノーニ　　オーボエ協奏曲 2 番 d-moll

オーボエ協奏曲 5 番 C-dur
オーボエ協奏曲 8 番 g－moll
オーボエ協奏曲 11 番 B-dur

ハインツ・ホリガー（オーボエ）
イムジチ

EMI　AA-8860
トマーゾ・アルビノーニ　アダージョ
ルイ・オーリアンコンプ指揮トゥルーズ室内管弦楽団

3．古楽のアナログ盤の試聴結果

グラモフォン盤のアダージョは、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。編成の大きいオーケストラの演奏で、カラヤンらしい耽美的な解釈で、弦が滑らかです。

PHILIPS の SFX-8587（日本フォノグラム）盤のオーボエ協奏曲は、RIAA、R、第 4 時定数 High で聴いていきます。明るく浮き浮きとした表情や甘く切ない表情をホリガーのオーボエがクリアな音で歌い上げていきます。

PHILIPS の 9502 012 盤のオーボエ協奏曲は、ラベルには Made in Holland と記載があり、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。PHILIPS の SFX-8587（日本フォノグラム）盤のオーボエ協奏曲と同様、ホリガーとイムジチの演奏ですので、曲の表情や演奏スタイルには変わりはありませんが、PHILIPS の SFX-8587（日本フォノグラム）盤はおおらかな音であるのに対し、より緻密で細部の表現が向上しています。このことは、イムジチのヴィヴァルディの四季の国内盤とオランダ盤と同じ傾向でした。

EMI 盤のアダージョは、落ち着いた厚みのある音で、オルガンが前面に出て活躍します。

4．まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic MatⅡの結果をトレースでき、アルビノーニのアダージョやオーボエ協奏曲の表情が的確に捉えられ、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上